所在を表す動詞の競合：
オランダ語 staan と zitten を例に

岡部亜美
京都大学大学院
okabe.ami.48z@st.kyoto-u.ac.jp

キーワード：**オランダ語、所在表現、所在動詞、姿勢動詞**

1. はじめに

オランダ語の動詞 staan (英: stand)、zitten (英: sit)、liggen (英: lie) は、人間の姿勢を表す用法、物体の所在を表す用法などのほか、進行相の助動詞としての用法もあり、それぞれの観点から多くの研究蓄積がある (van de Toorn 1972, van Oosten 1984, Lemmens 2002, Lemmens 2005 など)。本稿は、これらの動詞が物体の所在を表す場合について、特に staan と zitten の使用が競合するときを対象としたケーススタディである。

所在を表す用法で staan、zitten が用いられるとき、その対象は (1) の「本」と「机」のような、物体間の所在関係の記述に限られない。(2) にも見られるように、物体と人間 (の身体の一部) の位置関係を記述する際にも、これらの動詞が使用される [1]。

(1) a. *Het boek staat op tafel.*[2]
the book stand-3SG on table
本が机の上にある。

b. *Het handdoek ligt op de vloer.*
the towel lie-3SG on the floor
タオルが床の上にある。

(2) a. *De sjal zit om de hals.*
the scarf sit-3SG around the neck
マフラーが首 (の周り) に巻いてある。

b. *Het horloge zit om de pols.*
the watch sit-3SG around the wrist
腕時計が手首 (の周り) に巻いてある。

本稿では、(2) のような物体と人間の位置関係を対象とし、2 種類の動詞が競合する一例として、「帽子が (人間の) 頭の上に乗っている」状況[3]に関する調査を行った。具体的には、staan 及び zitten が「帽子が頭の上に乗っている」という状況を記述する際に共に用いられ得ることをアンケート調査によって示し、オランダ語の所在表現において 2 種類の動詞が競合する場合の一例として考察をする[4]。本稿が調査の対象としたのは、この単一の状況であるが、調査結果は、所在を表す動詞の出現が競合する他の状況への応用が可能であると考えられる。

続く 2 節では staan 及び zitten が姿勢動詞、所在動詞であると述べる先行研究の記述をまとめ、問題提起を行う。これらの先行研究を踏まえ、執筆者は「帽子が頭の上に乗っている」という状況で、staan と zitten の出現状況に関するアンケート調査を行った。3 節では調査の結果について、帽子の形状や性質に応じて動詞が選択されていることを指摘し、さらに、動詞の使用に際しての男女差の問題に触れる。4 節ではこの結果を考察し、オランダ語において 2 種類の動詞が競合する場合の一例として、本調査の結果を位置づける。5 節ではまとめと今後の展望を述べる。

2. 先行研究のまとめと問題提起

2.1 姿勢動詞、所在動詞に関する先行研究

冒頭で述べたように、本稿で扱う staan 及び zitten は、liggen と共に、オランダ語で基本的な姿勢を表す動詞 (以下、姿勢動詞)、そして所在を表す動詞 (以下、所在動詞) であると見なされている (Lemmens 2002, 2005)。

まずこれらの動詞は、以下の例のように、人間の姿勢を表すために用いられる。

(3) a. *Hij staat voor de deur.*
he stand-3SG in-front-of the door
彼はドアの前に立っている。

b. *Ik lig op bed.*
I lie-1SG on bed
私はベッドで横になっている。

Lemmens (2005: 184) によれば、これらの動詞が表す「立っている」、「座っている」、「横になっている」という姿勢は、人間の基本的な姿勢であり、同研究ではこれらの動詞を「基本姿勢動詞 (cardinal posture verb)」と呼んでいる。

同時に、これらの動詞は物体の所在を記述するために使用されることができる ((1), (2) 参照)。オランダ語では複数の動詞が物体の所在を表現するのに用いられるといわれているが、姿勢動詞でもある staan と zitten もこのような動詞群に含まれる。オランダ語における所在動詞

を特定することを試みた研究としては van Staden *et al*. (2006) が挙げられる。同研究は、マックス・プランク心理言語学研究所の類型論的な調査の一環として行われたものである (Levinson and Wilkins 2006)。この調査は、オランダ語を含む調査対象となった言語それぞれでインタビュー形式で行われ、被験者は「〜はどこにあるか」という調査者の質問に答える形で、図 1 のような絵に描かれた物体の位置を表現するよう求められた。

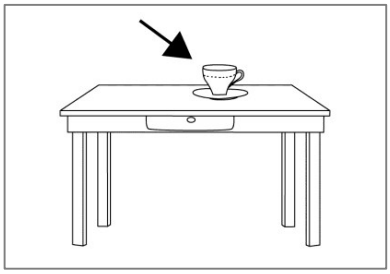


図 1　Topological Relations Picture Series M01

(4)　a.　Interviewer: Where is the cup?
　　b.　Interviewee: The cup is on the saucer.

調査は物体間、あるいは物体と人間の位置関係を包括的に対象とするものであり、調査中に頻出した動詞は所在動詞であるとして、その意味、用法の記述が行われた。最終的に、オランダ語ではコピュラ zijn と 5 種類の動詞 (staan, zitten, liggen, hangen (英: hang), lopen (英: run)) が所在動詞であると結論付けられた。

また姿勢動詞、及び所在動詞としての staan、zitten、liggen を対象としたアンケート調査としては Oosting (2016) を挙げたい。同研究は、オランダ語とドイツ語の所在動詞に関するアンケート調査を行い、両言語の比較を試みている。被験者は、Topological Relations Picture Series という調査用の一連の絵を見せられ、絵に合うように物体の位置関係を作文した。以下図 2 及び図 3 のデータは、被験者の作成した文中に生起した動詞の種類ごとの割合を示したものである。両図に見られるように、指輪と指、靴と足の位置関係の記述に、所在動詞 zitten が主に用いられることが分かる。

TRPS 10

NL	N=47(100%)
hangen	2,13%
omringen	2,13%
worden +P	2,13%
zijn	2,13%
zitten	89,36%
zitten +	2,13%

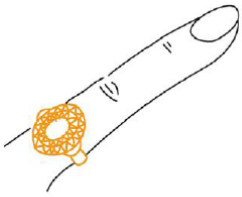


図 2　「指輪が指にはまっている」状況 (Oosting 2016: 75)[5]

TRPS 21: Objekt

NL	N=43(100%)
zijn	2,33%
zitten	97,67%

図 3　「靴が足にはまっている」状況 (Oosting 2016: 78)

図 2 及び図 3 に見られるように、物体と人間の位置関係の記述には zitten が頻繁に生起する。Oosting (2016) の調査中では、物体と人間の位置関係を表している絵 8 枚すべてで、zitten が主に好まれるという結果になっている[6]。

このように、物体と人間の位置関係を記述する際に zitten を使用することは珍しくないが、staan が出現することはまれである。例えば Oosting (2016) では、物体と人間の位置関係の記述の際に staan が用いられ得るという回答が見られたのは、「帽子が頭の上にある」という状況のみである (以下図 4 参照)。

TRPS 5: Objekt

NL	N=44(100%)
liggen	2,27%
staan	15,91%
zich bevinden	2,27%
zijn	4,55%
zitten	75,00%

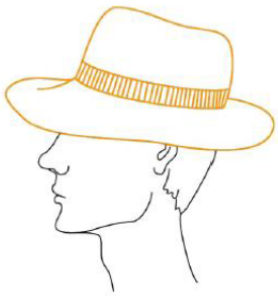


図 4　「帽子が頭の上に乗っている」状況 (Oosting 2016: 73)

ただ、Oosting (2016) の調査では、図 4 のような状況を記述するのには、zitten が 75% と高い割合で好まれ、staan を選択した被験者の割合はおよそ 16 % と、相対的にかなり低いといえる。

2.2 所在動詞 staan と zitten の意味に関する先行研究

先に見たように、staan と zitten は姿勢動詞であるため、「(人が) 立っている」あるいは「(人が) 座っている」という意味をそれぞれ持つ。このとき、staan にとって重要なのは、人体の垂直性や基本的な方向性 (つまり、上下逆さまでないこと) であり、zitten にとって重要なのは、人体が「立つ」と「横にある」の中間的な体勢にあり、相対的に、垂直にも水平にも顕著に伸びていないことである (Lemmens 2002, 2005)。

これらの動詞が所在動詞として用いられる場合も、姿勢動詞としての意味の本質部分は引き継がれている。まず staan が所在動詞として用いられる場合、同動詞は、物体が正しく機能するための基本的な姿勢 (Lemmens (2002: 118ff.) ではこれを「基本姿勢 (canonical position) 」と呼ぶ) にあり、その物体がその姿勢 (の垂直性) を十分維持できる硬さがあるとき [7]、及び、基本姿勢にないが垂直に顕著に長いときに用いられる (van de Toorn 1972, van Oosten 1984, Lemmens 2002)。前者については (5a)、後者については (5b) を例として挙げた。

(5) a. *Het boord staat op tafel.*
the plate stand-3SG on table
皿が机の上にある。

b. *De lange kartonnen does staat neben de muur.*
the long cardboard box stand-3SG next-to the wall
細長い段ボール箱が壁の横に (縦向きに) ある。

他方、zitten は、物体が違う物体に含まれるとき (収容) と、物体同士が緊密に接触しているときに用いられる (Lemmens 2002: 106-117)[8]。

(6) a. *Het boek zit in de tas.*
the book sit-3SG in the bag
本が鞄の中にある。

b. *De strik zit om de kist.*
the ribbon sit-3SG around the box
リボンが箱に巻き付いている。

先に物体と人間の位置関係の記述には zitten が頻繁に用いられることを指摘したが、これは物体と人間の身体が接触していると解釈されるためであると考えられる。

当該の状況を記述するのに適切な所在動詞は、物体の形状などの物理的な要素によって一義的に決まる場合もある。例えば、以下図 5 のようにコンピューターが机の上に置いてあるとき、動詞は staan になり、他の動詞で表現することはできない。

図 5 「コンピューターが机の上に乗っている」状況

(7) *De computer staat/ *ligt/ *zit op tafel.*
the computer stand-3SG lie-3SG sit-3SG on table.
コンピューターが机の上にある。

一方で、同じ状況に対して複数の動詞が許容される場合もある。以下の例は「靴下は引き出しの中にある」という状況を 2 種類の動詞で表現したものである。

(8) *De sokken liggen/zitten in de la.*
the socks lie sit in the drawer
'The socks are in the drawer'　(van Staden *et al*. 2006: 499)

この例では、靴下が引き出しの中でどのような状態にあるか (この場合、引き出しの中に横向きに置いてあること) を、話者がはっきり認識している場合は liggen が、引き出しの中が見えず、どのような状態にあるか分からない場合は、「中にある」ということに焦点が当たり、zitten が用いられるという (van Staden *et al*. 2006: 499)。このように、どの動詞を用いるかは話者の観察や状況の解釈の問題であり、上の例のように「横になっている」という解釈と「引き出しの中にある」という解釈が両方可能であれば、物理的には同じ状況であっても、複数の動詞が生起する、いわば動詞の競合が生じる可能性がある。

2.3 問題提起

上で見たように、本稿で主な調査対象とする staan と zitten は、オランダ語の所在動詞である。これらの動詞のうち、本稿で対象とする「帽子が人間の頭の上に乗っている状況」を表現するには、主に zitten が用いられ、staan の使用は相対的に許容されにくいと Oosting (2016) の調査からは分かる (図 4 参照)。

しかし、「帽子が頭の上に乗っている」という状況は、物体が基本姿勢にあり、その姿勢を十分に維持しているとも解釈できる。話者がこのような解釈を行った場合は、staan の使用が問題なく許容されてもおかしくないはずである。実際、執筆者の行った予備調査では、(9) のように staan と zitten の両方を許容し、両動詞の許容度に差がないことを指摘する母語話者もいた。

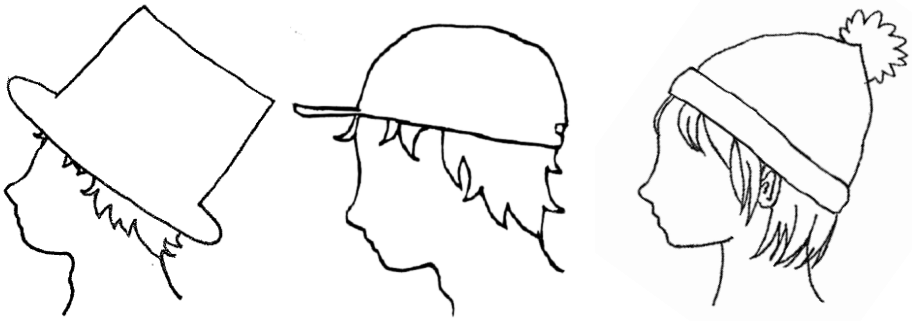
(9) *De hoed staat/ zit op het hoofd.*
the hat stand-3SG sit-3SG on the head
帽子が頭の上にある。

そこで執筆者は、物体と人間の位置関係を表現する際に 2 種類の動詞が用いられ得るケースとして、「帽子が人間の頭の上に乗っている」という状況における staan と zitten の使用状況に関してアンケート調査を行った。

3. アンケート調査 [9]

3.1 調査概要

本調査は、「帽子が (人間の) 頭の上に乗っている」という状況における staan と zitten の競合状況を確認することを目的とする。調査では、先行研究では帽子が 1 種類しかないことに鑑み、以下のように、山高帽、野球帽、ニット帽の 3 種類の帽子を区別した。この 3 種類の帽子は、以下図 6 に見られるように、形状が異なるのはもちろん、頭とどれぐらいの面積が接触しているか、どれぐらい硬いかなどの点で違いが見られる。



山高帽　　野球帽　　ニット帽

図 6　3 種の帽子の絵

回答者はそれぞれの帽子をかぶった人間の頭部の絵を見せられ、staan を本動詞として「帽子が頭の上に乗っている」ことを述べる文と、zitten を本動詞としてこれを述べる文という 2 種類の文に対して [10]、それぞれ許容度を四段階で評価した (3＝「許容できる」、2＝「まあまあ許容できる」、1＝「あまり許容できない」、0＝「許容できない」)[11]。

調査は 2016 年 11 月にオンライン上でオランダ語母語話者を対象に行われた。被験者の男女比と年齢層の分布は以下の通りである。

表 1　被験者の男女比 [12]

男性	女性	計
17 (21.8%)	61 (78.2%)	78 (100%)

表 2　被験者の年齢層の分布

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
32 (41.0%)	36 (46.2%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	5 (6.4%)	1 (1.3%)	78 (100%)

調査結果としては staan と zitten の両方が許容されると予想されるが、Oosting (2016) を踏まえると、zitten のほうが許容度が高くなるはずである。また、特にニット帽は比較的柔らかいという点で、硬さを前提とする staan を使用しにくくなり、柔らかく頭の形に沿うという点からも、接触を表す zitten の使用が増えると予想できる。

3.2 調査結果

本調査の結果、各帽子における staan と zitten の許容度の平均は、以下表 3 のようにまとめられる。

表 3　帽子ごとの許容度の平均

	staan	zitten
山高帽	1.95	2.08
野球帽	1.69	2.22
ニット帽	1.23	2.35

調査の結果、3 種の帽子で一貫して zitten の使用のほうが好まれることが分かった。山高帽、野球帽、ニット帽の順に zitten の許容度が低く、staan の許容度が高いのも特徴的である。また、ニット帽の場合は staan の許容度が低く、基本的に許容されにくいことが分かる。つまり、staan と zitten の両方が許容されるのは山高帽のときで、野球帽の場合は staan がかなり許容されにくくなり、ニット帽の場合は zitten のみが許容される傾向があるといえる。

2 種類の動詞のどちらを好むかという点では、本調査では大きな男女差、年齢差は確認できなかった。一方で、男女のデータを比較すると、男性のほうが動詞の使い分けが極端であることがわかった。まず以下の表 4 のように、staan の許容度から zitten の許容度を引き、両方の動詞を同程度許容する場合は 0、staan を好む場合はプラス、zitten を好む場合はマイナスになるようにする。つまりプラスの数字が大きいほど zitten と比べて staan を強く好んでおり、マ

イナスの数字が大きいほど staan と比べて zitten を強く好んでいることを示す。

表 4　staan と zitten の許容度の組み合わせとその差

staan の許容度－zitten の許容度	-3	-2	-1	0	1	2	3
(staan の許容度、zitten の許容度)	(0, 3)	(0, 2) (1, 3)	(0, 1) (1, 2) (2, 3)	(0, 0) (1, 1) (2,2) (3, 3)	(1, 0) (2, 1) (3, 2)	(2, 0) (3, 1)	(3, 0)
どちらの動詞をより好むか	← zitten をより好む						staan をより好む→

そのうえで、男女別でこの 7 種類の人数比を比べると、男性はどちらかの動詞を極度に好む傾向が強く、女性はどちらの動詞も同程度に許容する傾向があることが分かった。なお以下では、男女の回答者数の差に考慮し、女性のデータを無作為で 17 名分抽出して男性のデータと比較する。

まず全体の傾向を図 7 から確認したい。なお以下の図では両動詞の許容度に差がないと考える場合 (0 の場合) に区分線を引いた。

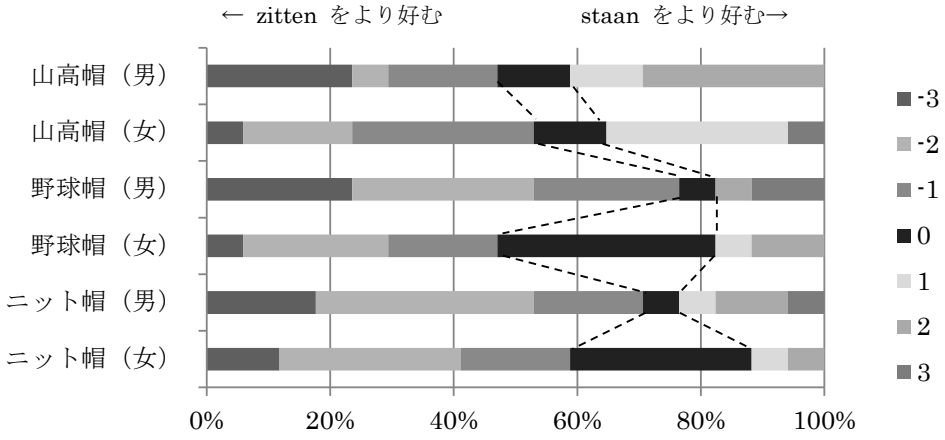


図 7　動詞の許容度の差：概観

上の図から、どの帽子種でも、女性のほうが-1、0、1 に人数が集中しており、男性は zitten を好む人 (図の左側)、中でも特に強く好む人 (-3 の人) が女性より多いことが分かる。以下では帽子の種類ごとに結果を詳しく見ていきたい。

まず表 5 に見られるように、山高帽が頭の上に乗っている場合、男性は zitten を強く好む人

(-3 の人) と staan を比較的よく好む人 (2 の人) の数が特に多い傾向があることが分かる。女性は逆に-2 から 1 に人数が集中しており、どちらかというと zitten を好みつつも、両動詞の許容度にあまり差がないと考える人が相対的に多い。

表 5　動詞の許容度の差：山高帽の場合

staan の許容度－zitten の許容度	-3	-2	-1	0	1	2	3	計
男性	4	1	3	2	2	5	0	17
女性	1	3	5	2	5	0	1	17

野球帽が頭の上に乗っている場合、以下表 6 に見られるように、男性は程度の差はあれ zitten の使用を好む人が圧倒的に多いことが分かる。女性も zitten を好むほうに人数が偏っているが -2 から 0 に人数が集中しており、両動詞に差がないと考えた人が特に多い。このことから、女性は男性より両動詞の許容度に大きな差はないと見なしやすいことが分かる。

表 6　動詞の許容度の差：野球帽の場合

staan の許容度－zitten の許容度	-3	-2	-1	0	1	2	3	計
男性	4	5	4	1	0	1	2	17
女性	1	4	3	6	1	2	0	17

最後にニット帽が頭の上にある場合 (表 7) を見るが、結果は野球帽が頭の上にある場合 (表 6 参照)に類似している。ここでも男女ともに staan よりは zitten を好むが、男性のほうが zitten と staan の許容度の差を大きくとる人が多い。

表 7　動詞の許容度の差：ニット帽の場合

staan の許容度－zitten の許容度	-3	-2	-1	0	1	2	3	計
男性	3	6	3	1	1	2	1	17
女性	2	5	3	5	1	1	0	17

表 5 から表 7 の結果をまとめると、男性は一方の動詞を他方の動詞より強く好む人が多く、女性は両動詞の許容度にあまり違いがないと考える人が多かった。また、山高帽が頭の上に乗っている場合のみ、staan を強く好む男性と zitten を強く好む男性がそれぞれ多くいたことが特徴的である。野球帽、ニット帽の場合は、staan をより強く好む男性は少なかった。

4. 考察

調査の結果、「帽子が人間の頭の上に乗っている」という状況では、帽子の種類にかかわらず、zitten の使用が好まれることが分かった。しかし、山高帽、野球帽、ニット帽の順で zitten の許容度が高く、逆に staan の許容度が低いという結果も併せて得られた。特にニット帽の場合、staan の使用は非常に許容されにくいといえる。また、一方の動詞を他方より好むかという点では、男女差があることが分かった。具体的には、男性はどちらかの動詞を強く好む人が多く、女性は両動詞の許容度に差がないと考える人が多い。この際、山高帽の場合のみ staan を強く好む男性が比較的多いことが特徴的である。

ここで、3.1 で立てた予想との整合性を確認したい。執筆者はまず、先行研究を踏まえ、staan と zitten の両方の動詞が許容されるが、後者のほうが許容度が高くなるはずだと予想した。また、特にニット帽は、硬さを前提とする staan とは共起しにくいのではないかと考えた。この予想はどちらも今回の調査結果から裏付けられた。

これを踏まえ、両動詞の使用がどのように動機づけられるか考えてみると、2.1 で述べたように、zitten の使用は物体と人間の接触に焦点を当てており、一方 staan の使用は物体が基本姿勢にありそれを維持できる硬さがあることに焦点を当てているといえる。山高帽、野球帽、ニット帽と、帽子と頭の接触面積が大きくなり、密着度が高まるにつれ、zitten の許容度が高くなるのはこのためであろう。また、基本姿勢を維持できる硬さがあることを使用の前提とする staan は、ニット帽が柔らかいものであるために、たとえ基本姿勢にあっても staan との共起が好まれなかったと考えられる。

さらに、以上の考えを確かめるために、「王冠が頭の上に乗っている」という場合と、「甕が頭の上に乗っている」という場合、どの動詞を用いるか母語話者に確認した。王冠は基本姿勢にあるとはいえるが、非常に硬く頭の形に柔軟に沿うということは考えにくい。甕もまた基本姿勢にはあるが、王冠同様、頭の形に沿うような柔らかさに欠け、帽子よりさらに頭との密着度が低いと考えられる。このような物体が頭上にある際に、以下 (10) のように、staan の出現が許容される一方で zitten の使用が許容されにくいのは、執筆者の考えを裏付けるものであるといえよう。

(10) a. *De kroon staat/ ?zit op het hoofd.*
the crown stand-3SG sit-3SG on the head
王冠が頭の上に乗っている。

b. *De pot staat/ ?zit op het hoofd.*
the pot stand-3SG sit-3SG on the head
甕が頭の上に乗っている。

本調査で見てきたような staan と zitten の競合状況は、(8) に挙げたように同一の状況で 2 つの解釈を許容する場合の一例と見ることもできる。例えば山高帽の場合は、両動詞の許容度に差が少なく、動詞の選択の違いは状況の解釈の違いと考えることができる。つまり、「物体が機能的に正しい姿勢にあり、その姿勢を維持している」と解釈すれば staan の使用が、「物体と人体が接触している」と解釈すれば zitten の使用が動機づけられる。しかし、山高帽以外の状況では、1 つの状況に対して両方の動詞の許容度を同程度であると考えた人もいる一方、全体の平均という観点からは許容度に段階的な差が見られた。つまり許容度の平均値の高低という観点から考えると、「何かが頭の上に乗っている」という状況は、1 つの動詞が許容されやすい状況からもう 1 つの動詞が許容されやすい状況へと、両方の動詞を許容する状況を間に挟んだ連続体を形成しているといえる ((11) 参照)。

(11)　← staan が許容されやすい

甕、王冠　　山高帽　　野球帽　　ニット帽

zitten が許容されやすい→

また、動詞の許容度の高低は、物体の持つ性質や物体と人体の接触のあり方がそもそも staan の意味と結びつきやすいのか、zitten の意味と結びつきやすいのかに応じて決まると考えられる。表 8 に示したように、今回の調査では、頭の上に乗る物体が硬く密着度が低いほど staan が使用しやすく、zitten の使用が起こりにくくなる一方、柔らかく頭との密着度が高くなるほど staan が使用しにくく、zitten の使用が起こりやすくなる。

表 8　帽子の所在記述における staan と zitten の競合状況

← staan の使用が許容されやすい			staan の使用が許容されにくい→
←基本姿勢にあり、硬い			基本姿勢にあるが、柔らかい→
甕、王冠	山高帽	野球帽	ニット帽
←密着度が低い			密着度が高い→
← zitten の使用が許容されにくい			zitten の使用が許容されやすい→

このようなスケールで 2 種類の動詞の競合状況を説明することで、調査では問われなかったが現実には起こり得る無数の状況において、どの動詞が適切なのかを説明することができるだろう。

また、本稿で見てきたような 2 種類の所在動詞が競合する状況は、「帽子が頭の上に乗っている」という状況にとどまらない。たとえば、首に巻きつくようなネックレスの所在を表現する

のに、オランダ語では図 8 のように hangen と zitten の両方が許容されるといわれる。

TRPS 51: Objekt

NL	N=45(100%)
hangen	40,00%
omringen	2,22%
zijn	2,22%
zitten	55,56%

図 8 「ネックレスが首にかかっている」状況 (Oosting 2016: 88)

図 8 では、hangen と zitten の割合が比較的均衡しているが、何かが「首にかかっている／巻き付いている」状況は、マフラーやほかの形状のネックレスなどが首元に巻いてあるなど、様々な状況が想定され得る。しかし、これも 2 種類の動詞が競合する例の 1 つと見なせば、本調査で示したように、2 つの動詞のいずれかが好まれる状況と両方が好まれる状況は、動詞の意味と実際の状況との合致具合に応じて、連続体を形成していると予想できる。このように、本調査で得られた知見は、オランダ語で 2 種類の所在動詞が競合するケース全体に対して示唆を与えるものである。

今回の調査ではさらに、どちらの動詞をより強く好むかという点で、男女差があることが分かった。社会言語学では女性のほうが社会的に評価の高い、つまり標準的な発音や文法を使おうとすることが指摘されている (東 2007: 83)。今回の結果で、女性のほうが両動詞の許容度に差がないと回答したことは、規範面でどちらか一方の動詞が好まれることがないことを示しているのかもしれない。一方で、このような動詞の使用については、学校教育で教えられるものではなく、はっきりとした規範があるわけではないとも考えられる。よって、今回の調査結果はむしろ、各動詞を実際に使用することで、社会的にどのように評価されるのかという面を反映している可能性がある。これを踏まえると、女性のほうが動詞間に許容度の差を想定しないことは、動詞の使用面で社会的な評価の差がないこと、ひいては両動詞が共に日常において頻繁に出現し、どちらも問題なく許容されていることを示しているのかもしれない。いずれにせ

よ今回は、所在動詞の使用に男女差がある可能性について指摘するにとどめ、その意味するところについてはさらなる調査を行いたい。

5. まとめと今後の展望

本稿ではオランダ語で 2 種類の所在動詞が競合する例として、「帽子が頭の上に乗っている」という状況で、staan と zitten の両方が出現し得ることをアンケート調査から明らかにした。またこの際、複数の種類の帽子を調査することで、2 種類の動詞の出現する状況と動詞が 1 種類ずつ出現する状況が、動詞の意味と現実の状態に応じて、連続体を形成することを明らかにした。このような知見は、「帽子が頭の上に乗っている」という状況以外でも、2 種類の動詞が競合する状況に対しては応用できるものである。さらに今回の調査では、両方の動詞を許容するか、片方しか許容しないかという点では、男女差があることが分かった。

本稿はオランダ語を対象とするものであったが、同様の動詞を所在動詞とするドイツ語[13]も、物体と人間の位置関係の記述に sitzen の使用を許容することが分かっている (以下 (12) 参照)。

(12) *Der Hut sitzt auf dem Kopf.*
the hat sit-3SG on the head
帽子が頭の上に乗っている。

本調査の結果をドイツ語所在表現における動詞の使用と対照することで、それぞれの言語の所在動詞研究を新たな観点から見直すことができるだろう。今回オランダ語に関して得られた結果は、他言語との比較材料としても積極的に活用し、各言語の所在動詞がどのように用いられるか明らかにしていきたい。

注

1. 物体と人間の位置関係というとき、先行研究の調査対象はベルトなどの衣服や、ピアスなどの装飾品と人間の身体の一部の位置関係である。可能性としては、小さな物体 (文房具など) などが人間の手のひらの上にあるとき、木の葉が肩の上にあるときなどといった状況も考えられ得るが、このときは物体と物体の位置関係を記述するのと同様に動詞が使い分けられていると想定される。そのため本稿では、一方が物体ではなく人間であることが動詞の使用に影響を与えていると予想される場合を、調査の対象として特に抜き出して「物体と人間の位置関係」と呼ぶ。
2. 文例は典拠のない限り、執筆者が作例したものである。
3. 「状況」という語は、本稿においては、所在動詞で記述される、二つの物体あるいは物体

と人間の物理的な位置関係を指すこととする。

4. なお、このように「帽子が頭の上に乗っている」という状況を対象としたため、本稿では同状況の記述に用いられる staan 及び zitten を主に対象とし、liggen に関しては、特に焦点を当てなかった。
5. zitten+ とは、動詞以外に heen (英: away) や herum (英: around) などの語が共起して、物体の方向性を表していたことを意味する。
6. 以下考察でも指摘するように、zitten 以外の動詞が高い頻度で用いられる、つまり 2 種類の動詞の使用が競合する場合もある。例えば Oosting (2016) の調査では、「ネックレスが首の周りに巻いてある」状況と「イヤリングが耳についている」状況では hangen の割合が高かった。
7. このように、物体が基本姿勢にあるかという観点から staan の使用を動機づける考え方のほかに、基部 (base) の有無で説明する考えもある。基部とは、一方の物体が基本姿勢にあるとき、もう一方の物体と接して全体を支える部分や面のことを指す (Lemmens 2002: 119f.)。例えば、茶碗の高台や、ラップトップパソコンの底面などがこれに当たる。基部を用いて staan の意味を説明する場合、物体に基部があり、物体の本体 (基部以外の部分) がその上に正しく存在するとき、そしてその正しい姿勢を維持できるほど物体が硬いときに同動詞が用いられるという説明になる。同様の分析は Serra Borneto (1996) でドイツ語の動詞 stehen (英：stand) に対しても提案されている。本稿では、説明の簡潔性を求め基本姿勢による記述を行ったが、基本姿勢による説明と基部による説明に大きな違いはないと執筆者は考えている。
8. なお van Staden *et al*. (2006) では、zitten の意味は「付着 (attachment)」と「単一組織化 (single unit organization)」の二種類に大きく分けられる。本稿のいう「接触」は「付着」と、「収容」は「単一組織化」と大まかに対応していると考えられる。
9. アンケートの作成、配布にあたっては、Dick Smakman 博士 (ライデン大学)、Anja Collazo 博士、Niels Erdkamp さん (ライデン大学) にご協力頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。
10. この際、staan、zitten 共に、前置詞は op (英: on) が共起するよう選択肢を作例した。なお、同じ頭にかぶるものでも、ヘアバンドのように頭に巻き付けて使うものの場合は、staan より zitten、さらに前置詞も op より om (英: around) のほうが好まれる。

(i) a. *De haarband *staat/ ?zit op het hoofd.*
the hairband stand-3SG sit-3SG on the head
b. *De haarband zit om het hoofd.*
the hairband sit-3SG around the head

11. 調査時には 4＝「許容できる」、3＝「まあまあ許容できる」、2＝「あまり許容できない」、1＝「許容できない」という四件尺度で調査したが、本文中では 0 ~ 3 に置き換えて結果を提示する。
12. パーセンテージは小数点以下第三位を四捨五入した。
13. ドイツ語の所在動詞は、オランダ語と対応する liegen (英: lie)、stehen (英: stand)、hängen (英: hang) の他、haften (英: stick)、kleben (英: stick)、stecken (英: put)、klemmen (英: tuck)、lehnen (英: lean)、schweben (英: hover)、schwimmen (英: swim) とコピュラ sein の 11 種類といわれている (Kutscher and Schultze-Berndt: 2007)。これには sitzen が含まれていないが、「帽子が頭の上に乗っている」というような、人間に係る状況では sitzen が出現することがある。

参考文献

Kutscher, Silvia, and Eva Schultze-Berndt. 2007. Why a Folder Lies in the Basket Although it is not Lying: The Semantics and Use of German Positional Verbs with Inanimate Figures. *Linguistics* 45 (5/6): 983-1028.

Lemmens, Maarten. 2002. The Semantic Network of Dutch Posture Verbs. In John Newman (ed.) *The Linguistics of Sitting, Standing and Lying* (=Typological Studies in Language 51), 103-139. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

Lemmens, Maarten. 2005. Aspectual Posture Verbs Construction in Dutch. *Journal of Germanic Linguistics* 17(3): 183-217.

Levinson, Stephen C., and David P. Wilkins (eds.) 2006. *Grammars of Space – Explorations in Cognitive Diveristy*. Cambridge: Cambridge University Press.

Oosting, Tabitha. 2016. *Positionsverben. Der Unterschied zwischen der deutschen und niederländischen Sprache beim Gebrauch der Verben sitzen (zitten), liegen (liggen) und stehen (staan) bei Menschen, Tieren und Objekten*. Bachelor Thesis, Utrecht University.

Serra Borneto, Carlo 1996. *Liegen* and *stehen* in German: A Study in Horizontality and Verticality. In Eugene H. Casad (ed.) *Cognitive Linguistics in the Redwoods: The Expansion of a New Paradigm*, 459-506. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

Topological Relations Picture Series = Bowerman, Melissa, and Eric Pederson. 1992. Topological Relations Picture Series. In Stephen C. Levinson (ed.) *Space stimuli kit 1.2*: November 1992, 51. Nijmegen: Max Planck Institute for Psycholinguistics.

Van Staden, Miriam, Melissa Bowerman, and Mariet Verhelst. 2006. Some Properties of Spatial Description in Dutch. In Stephen C. Levinson and David P. Wilkins (eds.) *Grammars of Space – Explorations in Cognitive Diveristy*, 475-511. Cambridge: Cambridge University Press.

Van den Toorn, Maarten C. 1972. Over de semantische kenmerken van staan, liggen en zitten. *De Nieuwe Taalgids* 6: 459-64.

Van Oosten, Jeanne. 1984. Sitting, Standing and Lying in Dutch: A Cognitive Approach to the Distribution of the Verbs *Zitten, Staan,* and *Liggen*. In Jeanne van Oosten and Johan Snapper (eds.) *Dutch linguistics at Berkeley,* 137-160. Berkley and CA: UCB.

東照二. 2007.『社会言語学入門 ＜改訂版＞―生きた言葉のおもしろさにせまる―』東京: 研究社

Interchangeability of Dutch Locational Verbs *staan* and *zitten*

Ami Okabe

This paper examines the interchangeability of Dutch verbs *staan* ((en.) *stand*) and *zitten* ((en.) *sit*) to describe the situation where a hat is on someone's head. To indicate the location of an object, it is said that there are six specific locational verbs in Dutch including *staan* and *zitten*, which are also canonical posture verbs. The verbs *staan* hardly occurs to express the locative relation between an object and a human (body), while *zitten* is most frequently used for this purpose. Therefore it is not surprising that the literature pointed out that almost only *zitten* is used to mention the hat-is-on-the-head situation. On the other hand, some native speakers totally accept, or even prefer, the use of *staan* in this situation. This paper shows, based on the questionnaire survey, that both verbs can be used to describe a hat put on someone's head, though a cap or a knit cap on his/her head cannot be expressed with *staan*. This can be rightly explained in terms of the meaning of both verbs. Furthermore, the results indicate that males tend to prefer one verb to the other, whereas females have a tendency to accept both. This might be the indication of acceptability of both verbs in the standard language. These results can be evidence to prove that innumerable possible situations in the world can be categorized in Dutch according to how a situation matches the meaning of verbs, eventually forming a continuum of situations.